

匠の街春日部かわら版

発行 備コーワ
編集室: 工房えびはら

「ぶらり散歩」-35- 妻沼聖天山と割烹千代樹



埼玉の日光東照宮とも言われる「妻沼聖天山(めぬましようでんざん)」をぶらりしてきました。

妻沼聖天山は、日本三大聖天のひとつで、他には奈良の「生駒聖天」と東京の「待乳山聖天」が有名です。聖天山は平家物語、源平盛衰記や謡曲美盛、歌舞伎美盛物語などに、武勇に優れた義理人情に厚い人柄が称えられており、斎藤別当美盛公(さいとうべっとうみもり)が当地の庄司として、「本尊聖天さまを治承三年(1179)にお祀りしたのに創まりです。その後、美盛公の次男斎藤八実長(やねなが)が出家して阿彌房良庵(あみやのりょうあん)として(1197)に本坊の歡喜院を創しました。

縁をはじめ、家内安全、商福運厄除の神として、夫婦



境内最古の建築物である中門脇に、三階建ての土蔵を持つ明治5年(1872)創業の割烹千代樹さんがあります。明治文学界を席巻した文豪田山花袋の後期の名著『残雪』。田山花袋が東京朝日新聞に『残雪』を連載した当時(1907年)頃は割烹旅館を営んでおり、『残雪』の舞台となった「くも知られ」の老舗で

境内最古の建築物である中門脇に、三階建ての土蔵を持つ明治5年(1872)創業の割烹千代樹さんがあります。明治文学界を席巻した文豪田山花袋の後期の名著『残雪』。田山花袋が東京朝日新聞に『残雪』を連載した当時(1907年)頃は割烹旅館を営んでおり、『残雪』の舞台となった「くも知られ」の老舗で



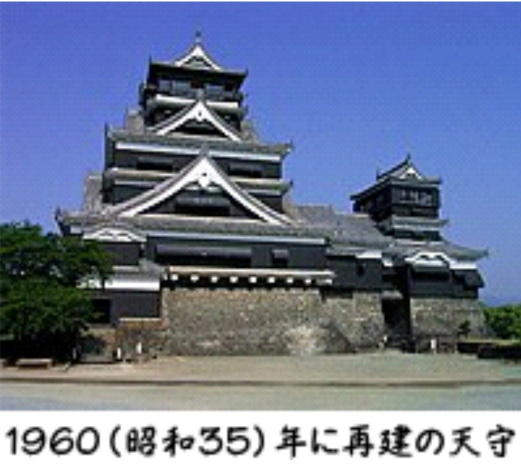
境内最古の建築物である中門脇に、三階建ての土蔵を持つ明治5年(1872)創業の割烹千代樹さんがあります。明治文学界を席巻した文豪田山花袋の後期の名著『残雪』。田山花袋が東京朝日新聞に『残雪』を連載した当時(1907年)頃は割烹旅館を営んでおり、『残雪』の舞台となった「くも知られ」の老舗で

境内最古の建築物である中門脇に、三階建ての土蔵を持つ明治5年(1872)創業の割烹千代樹さんがあります。明治文学界を席巻した文豪田山花袋の後期の名著『残雪』。田山花袋が東京朝日新聞に『残雪』を連載した当時(1907年)頃は割烹旅館を営んでおり、『残雪』の舞台となった「くも知られ」の老舗で

境内最古の建築物である中門脇に、三階建ての土蔵を持つ明治5年(1872)創業の割烹千代樹さんがあります。明治文学界を席巻した文豪田山花袋の後期の名著『残雪』。田山花袋が東京朝日新聞に『残雪』を連載した当時(1907年)頃は割烹旅館を営んでおり、『残雪』の舞台となった「くも知られ」の老舗で



境内最古の建築物である中門脇に、三階建ての土蔵を持つ明治5年(1872)創業の割烹千代樹さんがあります。明治文学界を席巻した文豪田山花袋の後期の名著『残雪』。田山花袋が東京朝日新聞に『残雪』を連載した当時(1907年)頃は割烹旅館を営んでおり、『残雪』の舞台となった「くも知られ」の老舗で



1960(昭和35)年に再建の天守

歴史を歩く「第一四八話 地震被災から復興進む熊本城」

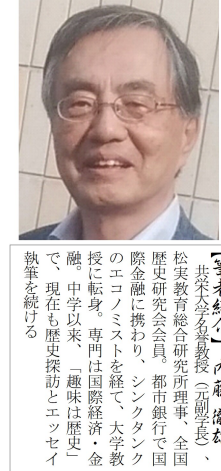
一〇一三(平成二五)年秋に歴史イベント参加のため熊本を訪問し、高校の修学旅行以来五十余年ぶりに熊本城を見学しました。再建された本丸御殿を見るのが楽しみでした。

熊本城は大阪城、名古屋城と並び日本三名城の一つに数えられています。築城の名手、加藤清正が手掛けただけあって、美しい石垣に守られた壮大な城郭と黒さが際立つ豪壮な天守閣は、さすが名城の名にふさわしい見事なものでした。

白川を外堀に坪井川を内堀にした城郭の周囲は五キロ余り、面積二四万坪と江戸期大名の居城としては屈指の規模を誇っていました。江戸初期に加藤家が改易になり、その後幕末まで一三〇余年にわたり細川家五万石の居城でした。本丸には大天守と小天守が聳え、天守閣の対面には唯一清正当時の建物と言われる三層五階の宇土櫓が建っています。一八七七(明治十)年の西南戦争時に天守閣と本丸御殿は焼失しましたが、一九六〇(昭和三五)年に天守閣が鉄筋コンクリート造りで再建され、内部には加藤家、細川家の歴史資料等が展示されています。

見どころの一つは、穴生衆(あなうま)のうしゅうの手になる高石垣で、優美な曲線を描き上部になると急こう配になる石組みは見事の一言に尽きます。また、内堀である坪井川沿いの一四〇mにも及ぶ長塀は江戸時代の遺構で往時を忍ばせていました。

境内最古の建築物である中門脇に、三階建ての土蔵を持つ明治5年(1872)創業の割烹千代樹さんがあります。明治文学界を席巻した文豪田山花袋の後期の名著『残雪』。田山花袋が東京朝日新聞に『残雪』を連載した当時(1907年)頃は割烹旅館を営んでおり、『残雪』の舞台となった「くも知られ」の老舗で



境内最古の建築物である中門脇に、三階建ての土蔵を持つ明治5年(1872)創業の割烹千代樹さんがあります。明治文学界を席巻した文豪田山花袋の後期の名著『残雪』。田山花袋が東京朝日新聞に『残雪』を連載した当時(1907年)頃は割烹旅館を営んでおり、『残雪』の舞台となった「くも知られ」の老舗で

境内最古の建築物である中門脇に、三階建ての土蔵を持つ明治5年(1872)創業の割烹千代樹さんがあります。明治文学界を席巻した文豪田山花袋の後期の名著『残雪』。田山花袋が東京朝日新聞に『残雪』を連載した当時(1907年)頃は割烹旅館を営んでおり、『残雪』の舞台となった「くも知られ」の老舗で



本丸御殿の「昭君の間」(復元)

ASA 春日部
 〒344-0055 春日部市八木崎町1-19
 ☎0120-86-1637 FAX:048-761-0044
 http://www.asa-kowa.com

コーワ春日部ミルクセンター
 TEL:048-753-1800 FAX:048-761-3036

読者の広場

朝日新聞と森永牛乳を皆様の笑顔のために届ける情報誌

1月号 Vol.313
2025年1月20日(月)

発行所：(株)コーワ
 発行者：広地 進
 制作・編集：工房えびはら
 発行日：毎月20日発行

漢字ぐるぐるパズル

漢字ぐるぐるパズルは、パズルとリストの漢字を白マスに入れて、漢字しりとりを完成させてください。リストに残った四つの漢字でできる熟語が答えです。

正解者の方に抽選でプレゼント致します！
 (希望商品を2つまで書いてください)

- ① 朝日新聞 天声人語書き写しノート 5名様
- ② 森永絹ごし(こ)豆腐(常温保存可) 10名様
- ③ 森永充実野菜(常温保存可) 3本 5名様
- ④ 森永まろやか黒酢(黒糖&りんご味) 3本 5名様

リスト
 家間行主 市場声代 品優
 化乾口手 商正対 氷門
 下街金室 出食燥 調文
 応歌感策 樹色節 地分 料

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|--|---|---|---|
| 冬 | 景 | | | 味 | | | | | |
| 事 | 代 | | | 店 | | | | | |
| | 調 | | | 相 | | | | | |
| 筆 | 温 | 入 | | 上 | 援 | | | | |
| | | | | 袋 | | | | | |
| | | | | 外 | | | | | |
| 想 | 粧 | 不 | | 文 | | | 時 | 校 | 所 |
| | | | | | | | | | |
| 越 | | 女 | 演 | | | | | | 替 |

難易度 ★☆☆(初級)

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 冬 | 日 | 和 | 食 | 塩 | 水 | 平 | 安 |
| 理 | 小 | 説 | 明 | 文 | 庫 | 本 | 全 |
| 推 | 木 | 工 | 事 | 実 | 上 | 抛 | 運 |
| 類 | 土 | 上 | 金 | 銀 | 天 | 地 | 転 |
| 菜 | 郷 | 売 | 界 | 世 | 気 | 名 | 校 |
| 根 | 想 | 商 | 気 | 人 | 前 | 誉 | 生 |
| 屋 | 理 | 料 | 魚 | 遊 | 回 | 挽 | 菓 |
| 宿 | 下 | 部 | 学 | 理 | 心 | 供 | 子 |

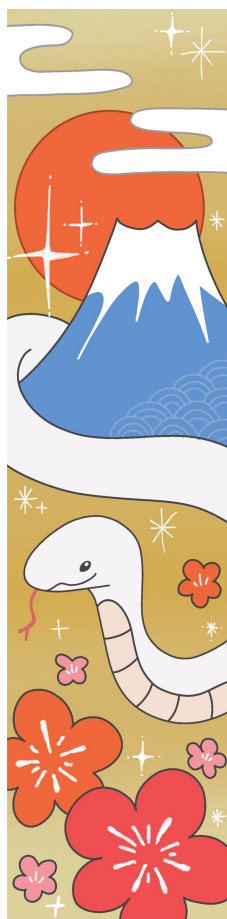
先月号の答えは『日進月歩』でした。

クイズ応募者38名様で、38名の方が正解でした。

日進月歩

☆☆☆「漢字ぐるぐるパズル」クイズ解答応募先☆☆☆

ハガキかメールで「答え」、「住所・氏名」をご記入の上、コメントを添えてご応募ください。
 〒344-0055 春日部市八木崎町1-19 (株)コーワ「漢字ぐるぐるパズル」係 メール otayori@asa-kowa.com まで
 ハガキは1月28日消印有効、メールは1月末日到着有効(当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます)



【イラスト:あやか】

Cooking

ハクサイとサバの梅昆布炒め

1人分405kcal 塩分3.3g 15分

●材料(2人分)

- ハクサイ.....400g
- サバ(切り身、半身).....1切れ
- 梅干し.....2個
- 塩昆布.....15g
- 片栗粉.....適量
- サラダ油.....大さじ1
- 塩.....少々
- ① 白いりゴマ.....大さじ1
- みりん.....大さじ1/2
- 塩.....小さじ1/4

料理・市瀬悦子 撮影・木村拓



【作り方】

- ①ハクサイは葉と軸に分け、葉は一口大に、軸は長さ5cm、幅1cmの棒状に切る。梅干しは種を取って包丁で粗くたたく。サバは骨を取って一口大のそぎ切りにし、塩を振って5分おき*、水けをふいて片栗粉を薄くまぶす。
- ②フライパンにサラダ油大さじ1/2を中火で熱し、サバの皮側を下にして入れ、2分ほど焼き色がつくまで焼く。裏返して1分焼いて取りおく。残りのサラダ油を中火で熱し、ハクサイの軸を炒める。透き通ったらハクサイの葉を加えて炒める。サバを戻し入れ、梅干しと塩昆布、①を加えて炒め合わせる。

現場 一期一会

婦人雑誌が提唱した「家計簿」が120年

朝日新聞立川支局員 山浦 正敬

新しい年を迎えても値上げのニュースが続きます。家計のやりくりは厳しさを増すばかりです。

戦争やオイルショックなど歴史をひもとくと、物価高になると家計簿が注目されます。家庭の収支を見える化して、自己防衛するためのようです。

家計簿を考案したのは雑誌「家庭の友」の初代編集長です。1904年12月に創刊され、その後「婦人之友」と改名された月刊誌は今に続きます。国内で最も

歴史ある婦人雑誌で、今年で創刊122年です。この間、雑誌の発行元が家計簿を発行しなかったのは戦中戦後の計4年だけです。戦後の混乱期には同誌の呼びかけで「家計簿をつけ通す同盟」が生まれました。

家計簿から見えるのは暮らしの変化です。同誌が読者を通じて定期調査した結果、戦後の家計で食費の占める割合が減り、住宅費や教育費が増えたそうです。コロナ禍を経て物価高に

直面する最近はどうか。同誌は昨年12月号で、家計簿120年を特集。物価高に負けない活用術を紹介しました。

創刊から描き続けるのは「生活や社会の未来」です。女性の社会進出は進み、今は共働きが主流です。もはや家計簿つけは女性の仕事ではありません。約5年前にはクラウド家計簿のサービスが開始されました。オンラインで家庭内共有できる時代です。同誌の初代編集長は女性新聞記者の草分けでした。歴史を刻み続ける婦人之友は、どんな未来を描いていくのか。新聞も問われる課題です。

お便りコーナー

◆先日21年間働いていた、パート努めをやめました。年々導入される機械化に頭が付いて行かず、ストレスの毎日でした。まだまだ働けるのではと、引き止められましたが、体は動けるのに、便利になるはずの機械化に脳が付いて行けない現状でした。でも74才まで働けた事に満足しています。
 【大枝 K.Kさん】

◆令和六年は、ロシアがウクライナから去る様子がない事、アメリカの大統領が再びトランプになる事、中国は台湾を諦めていない事、なぜ世界はこんなに平和から遠くなるのだろうか。地球上から戦争のない日は来ないような気がする。私達は日常の小さな幸福が欲しいだけなのに。世界のリーダーにとつて幸福とは、どんなものなのか。
 【大枝 Y.Nさん】

◆私は名古屋出身ですが、小学校の同級生が東京に3人居ます(私を入れて4人)。今までは年に2〜3回楽し〜同窓会やっていた。ところが11月の集まりでは、急に2人が入院で不参加となりました。いよいよ4人のパラスが崩れる時が来たのだ、と淋しくなりました！ 全員87才。男子2人、女子2人です。
 【備後東 E.Yさん】

◆近ごろスマホの姿も声も、あまりみない、きかない。それにひきかえ、カラスが朝な夕なに情報をかわし合うように鳴いている。鳥の社会も大勝が勝ち？
 【備後東 K.Nさん】

◆今年も物価の高騰が続いています。税負担率は50%に迫り、さら増税の話が出ている。税負担は限界に近いが将来の不安はつきない。物価が落ちつき良き未来を展望できるといい。今「規範と模範の意味を考へてみる自分」が。
 【南 N.Oさん】

◆11月24日にコーカ堂が閉店しました。西口の一等地にある大塚家とコーカ堂がなくなり、市は他の企業の誘致をしたのでしょか？ 毎月毎月人口減少が進んでいる市は又、魅力力をなくしてさらに人口減少が進むでしょう。市長は何か手をつとめるのでしょうか？
 【梅田 K.Eさん】

◆続けられるかな？と思いつながら始めた5年日記も4冊目となりました。1年前の今日、5年前の今日、10年前の今日何をしてたのだろうと、ページをめくってみるのも楽しいものとなりました。が月日の経つのが早過ぎてもうすぐ後期高齢者。できる限り続けてゆきたいと思っています。
 【粕壁 Y.Iさん】

◆毎年、年末に会津の新酒を取り寄せています。電話の向こうで昨晩から50cmも雪が積もって、朝4時から雪かきしてるとか。関東の太陽のぬくもりを届けてあげたいと言ったら、この寒さかなと美味いお酒はできないとか、ぬくぬくしてこの身に頭がさかりました。
 【大沼 M.Iさん】

◆2024年から俳句と卓球、初めての二つに飛び込んだ。どちらも自分の未熟さに悔しさ募るばかりだが、楽しくありたい場所である。ジャンケンやビンゴ宝くじは全く弱いが人には恵まれて来た。仲間の皆さん、感謝です。2025年もよろしくお祈りします。明けの春を待たせたい。
 【大沼 N.Iさん】

◆年末年始は何回か映画館に行きました。昔々、映画館はタバコの臭いがひどくて嫌いな場所でした。今は清潔で大画面なので満足しています。そして、男女差別が解消されるとの禁煙環境が整うのは、ほほほとスピードだったように思えます。
 【豊町 T.Iさん】

◆ありがたいや、温暖化気象異常もものはと今年も西風が吹く師走を迎え、澄んだ青空に雪を頂いた富士の霊峰が近くの県道から拝めるようになりました。いい気分です。今日も一日幸せでありますように。良い年が迎えられますように。
 【増田新田 H.Aさん】